

市政に対する

一般質問

児童生徒・保護者と

教師の連携は

関亦議員 様々な個性を合わせた子どもに対するには、学校・家庭、相互の信頼関係の上に成り立つ連携を強化する必要に迫られているが、教育的意義を逸脱していると感じられる高圧的な教師の言動もあり、信頼関係を築くに至らないといった話を耳にする。公正な教育現場の実現、開かれた学校運営を望むが、所見を伺いたい。

教育長 児童生徒に対する指導方法については、本人に対して指導を受ける意味を理解させ、今後の学校生活がスムーズに送れるよう、子どもたちの気持ちにも配慮しながら指導している。

指導の行き過ぎによる体罰等はあってはいけないことなので、指導の過程で教育的意義を超えた行き過ぎた場面がないよう、複数名で指導にあたるよう配慮している。教師の児童生徒に対する姿勢は教

育の根本であり、深い教育的配慮に基づいた指導が要求される。各

教員は、常にこのことを意識し、毎日、教育活動に取組んでいる。

教育委員会としても、常に教員として自覚ある行動をとるよう、校長会等を通じて周知徹底を図っている。

自転車走行ルールの徹底と

自転車走行帯の計画は

関亦議員 自転車利用者の安全確保のために、歩道走行が可能であることを周知するとともに、歩道の歩行者に配慮した正しき交通ルールの啓蒙と啓発が必要と考え

ていかがか。また、自転車走行帯「青レーン」を設置する安全環境づくりについて伺いたい。

市民生活部長 本年十月の警察庁交通局長から各都道府県警察への通達を受け、栃木県警察本部は安全性を考慮した地域の交通事情に

沿った対策計画を作成する方針である。自転車は道路交通法で「軽車両」に位置づけられ、車道通行が原則であることなど、自転車運転における基本的ルールについて、市ホームページや広報もおかなどに掲載し広報、啓発に努めたい。

建設部長 青色自転車通行帯については、市道第二三八号線真岡駅西口付近約百九十メートルと同路線との交差点から大谷新町まで約四百四十メートル区間を青色カラー舗装にした。

本市としては、「三メートル未満の歩道を原則自転車通行のできない歩道とする」などの警察庁交通局長からの通達を受け、今後は交通管理者である栃木県警察本部

による「自転車交通の総合的な対策計画」が策定された場合、その計画を踏まえ、関係機関と協議しながら整備を進めたい。

新市庁舎建設の方針と

市庁舎建設基金は

海老原議員 現在の市庁舎は築五十四年となり、耐震化、老朽化、市民利用、事務の不便さなどの問題がある。市庁舎建設検討委員会、合併推進債の対応及び市庁舎建設基金の積立について伺いたい。

市長 真岡市庁舎建設検討委員会は副市長を委員長とする庁内組織であり、すでに二回の会議を行い、基礎資料の収集、建設スケジュールなどを検討している。今後は、基本構想、建設場所、規模、建設手法などの具体的な検討を行い、外部の意見を伺いながら基本計画等の検討をしたいと考えている。

合併推進債は市庁舎建設の元利償還金の四〇％が普通交付税の基準財政需要額に算入される有利な地方債であるため、これを活用したい。合併推進債の適用期間は、合併後の十年間であり、本市の場

合、平成三十年度までの事業完了が条件となる。よって、庁舎建設は、平成三十年度までに完了させなければならないという条件がつけられたわけである。

市庁舎建設基金は現在十五億八千四百八十二万三千円となっている。平成七年度に想定した事業費六十億円を計画金額とし、平成二十七年までには、その二分の一の三十億円を目標に積立てたい。

学校規模適正化の

今後の取組みは

海老原議員 芳賀郡内では、平成十八年から十九年にかけて、小学校の統廃合が実施され、二宮地区の小学校においても平成二十年四月に統廃合を実施している。

学校規模の適正化のためには、学区再編成と学校統廃合は避けて通れない。将来を見据え、子どもたちにとっての最善策を講じなければならぬ時期に来ている。今後の取組みについて伺いたい。

教育長 本市の小学校十八校のうち、一学年が少人数のため複式学級となる学校及び全学年が一学級



青色に舗装された自転車通行帯(白布ヶ丘地内)